

香り事業で新展開 岩佐佛喜堂（高松）

流川香（りゅうせんこ）は、業界の注目を集める岩佐佛喜堂（高松）は、「和の香」。「灰が落ちる」が佛壇店の仕事を担当する。意欲的に様々な香りを開発している。流川香に続く商品として期待されるのが、灰が

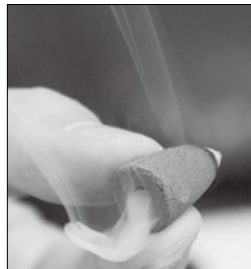
くるくると巻かれながら落ちずに燃焼するお線香（61年生）が香り事業を担当し、次男の祐次郎さん（本店店長・昭和63年生）が佛壇店の仕事を担当する。

今回の取材では弘法大師由来の塗香を見せて頂いたが、新しいお香だけではなく、伝統的な香りの復活にも注力している。

佐武彦社長は語る。岩佐社長の長男一史さん



岩佐武彦社長
岩佐一史さん(左) 岩佐祐次郎さん(右)



深山の霧を思わせる
流川香（上）
流川香用のお香（下）



ニューヨークでの展示会も出展された
灰の落ちないお線香「和の香」
※香立ては梅栄堂商品



弘法大師由来の塗香



明治5年創業
SINCE 1872

新ロゴ

が、新しいロゴとして佛と香と拝む女性を組み合わせた「佛」を制定した。

会社ロゴは以前から佛を象ったものであったが、新しいロゴとして佛と香と拝む女性を組み合わせた「佛」を制定した。